

## 同人作品

### 啼く 秋山義仁

友達に囃やしされても手をつなぐ二人で一つの大判饅頭

思い出はあまねく自分の影の中入り日通してはなびらの散る

蝉が啼く明日が八日と力込め妻の分まで啼く啼く啼く

あこのころの雪の降る街裏小路おでんの湯気がつつむ老夫婦

孫とこぐブランコ高く天を舞う私はとんだ未だ未だとべる

生終り死もまた終る霊柩車焼き場の往きか高い太陽

皺の中昔探して君と会うあの時止めた愛は有効か？

台風の過ぎた駅前裏小路看板消えて自転車転がる

上るとは双六用語色ならば夕焼時の黒に寄る赤  
我写す水たまり三日目なれば昼には乾き消え去る日常

幻想と現実 石邊綾子

重力にあらがいがいながら天空を目指して僕の費えた翼  
木枯らしに負けないでいる真っ白な一羽の鳥がたたずむほとり  
求めても得られないゆえ追いかけて腕の温もりどこまでも冬  
月光にジゼルゆらめくかのような午前三時の空間を射る  
オリーブをいつか大きく茂らせて葉陰で眠るすべて忘れて  
ソプラノのかすれた声も疎ましく側に寄るなど血圧あげる  
梅干しと焼き海苔だけで他愛なく胃袋でなすけられているきみ  
きつともっと時は大事なものだからなのに今日とて仕事で終わる

季節は移りゆく 井上省吾

ヒラヒラと風に吹かれて舞落る秋深くなり庭の木々の葉

柿の葉は紅葉もせず散り始めあつとゆうまに枝のみとなる

暑かった夏を乗り越えもちこたえ気を引締て寒さ対策

暑かった夏も終りてほつとする薄い布団を厚手にかえる

秋バラが木々の間に咲き出した蔓を延ばして数輪の花

涼しさに風に吹かれてコスモスも色とりどりに花を咲かせる

コスモスの花の周りの草刈りて花は活いき赤白ピンク

雨が降り畑仕事もひと休み草取り続き体休める

耕して石灰まいて土作りカラスが降りて種捜す

カラス鳴く高いところで見渡して仲間合図カアカアと

電線に止まって鳴くは黒い影カアカアと仲間と話す

くもり空飛び交うカラス数多く鳴声響きなげか気になる

カカカカカ高いところでカラス鳴くあたり見回し獲物はないか

ゴミ置場ネットをかけて防いでる食い散らかしをさせてはならぬ

三時半携帯ラジオONになり天気予報となつかしの歌

目を覚まします云うことはありがとう元気に過すすばらしき朝

ふと思う気付いた事はすばらしく忘れぬうちに書留ておく

ふと置いた物を捜すがわからないここに置くよと心をこめて

電気代節約をして厚着して寒さをしのぐ秋の一日

夏暑く寒い方がと冬思い寒くなったら夏思いだす

コロナ禍で帽子をかぶりマスクしてメガネをかけて買物に行く

警報器火災知らせる役目にて作動するかと確認をする

スキヤキを作ってたべて朝ごはん昼夜たべてまだ食べきれぬ

涼しくてお昼ごはんはカップメン三分まって思いきり食う  
戸を開き未だ明けきらぬ梅雨の空ポツカリ浮ぶやわらかな月  
夜明前明るくなった戸を開けて涼しい風を思いきり吸う  
青い空光が当り雲もなく梅雨空に見た朝のひととき  
窓越に西から東流れゆく雲の流れにしぼし見惚れる  
寒さ増し空気冷えびえ身を縮め体動かし発熱を待つ

指輪の秘密 加山妙子

他の嫁に秘密にせよと託されし姑の形見のジルコン十個  
ジルコンは米粒よりもちさき石姑のひみつの恋の名残りか  
熟練の金工師の手でよみがえる小指に燦めくジルコンリング  
唐突な三行半は十年目に気付けば二つ石抜け落ちて

渾身の力を込めて飛び出しぬジルコン二つ今は何処に  
永遠の愛を夢見て四次元に宝石ふたつ浮かびてゐるや

### ミラクル

亡き夫の愛でしカップのイラストは吾に酷似せし十七の乙女  
持ち重る陶器のマグはさようならケースの中で静かに眠れ  
虹色の空と湖とのモチーフは L L B e a n のステンレスカップ  
あたらしき出逢いと共に我がもとに來たりし真紅のカップの奇跡  
今燃ゆるこころの如し真紅色彩りの絵はマウントレーニア

### 百年の埃 熊谷恒樹

百年の埃舞う中解かれゆく柱の軋み祖父母の悲鳴か  
屋根を降り焚火を囲む休憩に煤けたヤカンでコーヒーをのむ

鐘 甲村秀雄

今日もまた心の鐘を打ちならしつつ生きていかんカランカランと

葉 甲村雅俊

煉獄のごとき勇者を殺めても死ねない鬼は悲しくはないか

着ぬ服を捨てる気持ちでさつぱりと人付き合ひの始末をつける

ついひに行く道とは予て聞きしかどペットロスとふ闇夜を生きる

ぬばたまの黒猫逝きて九か月ふつふつと湧くわが菩提心

チヨコに似る黒猫あまたインスタに生の輝き放ちてをつた

その時機をつい逸したか飼ひ猫の納骨をまだ済ませてゐない

飼ひ猫の臨終のこと思ひ出し胸の苦しさいつまでつづく

ナンテンの盆栽をわが愛すなり令和を生きる世捨て人ゆる

あたたかい思ひ出のいろ晩秋に昭和のポインセチアの赤は  
俗悪な印象もあるピンクいろアンスリウムの鉢を買ひたり  
アンスリウムを特に愛でたりわが寒き室内で茎をぴんと伸ばせる  
むらさきに赤と二色の縁取りのガーデンシクラメンを寄せ植ゑ  
見た目良し手触りも良しもここのスコッチシダに我は水遣る  
食すならカラッと揚げて酢醤油でハイビスカスの艶やかな葉は  
その茎は棒切れにしか見えねどもゼラニウムに葉が付き始めた  
榕の葉をたくさん千切り真昼間の鳩のむくろにかけてやりたり  
宅配で昨日届いたヤツデの葉にグーを差し出し負けを認める

阿蘇の大地のように 氷室敬子

亡き父の愛した阿蘇の草原を今映像で見て我はなつかしむ



草原の草を食みてビュービューとしぼる牛乳を思う

阿蘇山の火山灰で育ったというトルコキキョウらも菊も美しい

思い出はえんえんと続く幼き日まわり廊下で転んだことも

この橋を涉りきれば直く続くわが生家の石塀の門へ

高層のビルの上からながむれば地球の丸いこと納得できる

送り来し甘いキュウイむきながら初恋のように両手につつむ

枇杷の花 本田洋子

一人では生きられないと母を呼ぶ四十過ぎし娘<sup>こ</sup>断絶越えて

錆びついた車輪が二つ動き出すギコギコ心を擦り合わせつつ

冬晴れの青を突んざく真赤な実ピラカンサスのひしめき合いて

この冬を越えられないとぐずる人命の危機を脱することをも！

コンビニでしこたま買いて日課だがここで流しのタクシーを待つ  
ただ一人吾を待つ娘のアパートへ重いカートを引っ張り上げる  
地味なれど冬に花咲く枇杷の木の仄かに香り私を呼べる  
行き詰まり脱する如く湯に浸る檜ひきたつ真昼の光と  
吹かずとも枯嵐一号のような風水雨吹き荒れ凍えける朝

アイノカタチ 若杉ゆき

DNAより深い繋がりそれは愛関わる時間注ぐ情愛  
血縁はなにも無いけど愛注ぐジイジ大好き我が孫娘  
最後まで愛するために生まれたと人に愛された寂聴さん  
もし過去にタイムスリップ出来るなら二十二才の彼に逢いたい  
戻れたら謝りたいなあの人にあの日あの時あのテニスコート

例えれば時には愛はガラス細工触れば割れて心に刺さる  
クリスマス冬の飾りがキラキラと街に点れば恋しさ募る  
身をもつて教えてくれたポリープは血統だから注意しなさい  
父の死後恐る恐るとした検査良性と言われほっと胸撫でる  
沢山の男と女その中で出逢えた奇跡あなたと生きたい

